

平成29年度青少年教育施設のあり方を考える懇話会における総合評価シート

平成29年11月29日

施設名	青少年センター	所管課	教育委員会生涯学習課
-----	---------	-----	------------

1 施設の概要

施設所在地	香南市野市町西野303-1
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理運営に関すること ・施設の利用の許可に関すること ・設備の維持管理に関すること ・主催事業及び受入事業の企画運営に関すること <p><平成28年度主催事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中一学級づくり合宿 ・クラスまるごとお出かけ授業 ・キャリア教育(自由研究お助け隊) ・英語キャンプ ・どきどき発見隊 ・親子キャンプ ・大自然キャンプ ・のいち子ども村 ・自然の生き物観察隊「なにがでるかな」 ・防災キャンプ ・化石探検隊 ・モデルロケットに挑戦 ・飛行機を空高く飛ばそう ・ボランティア養成講座 など
施設内容	<p>「青少年の健全な育成」と「スポーツの振興」の2つの役割を担っているが、これらのためにはとりわけ、義務教育段階などにある児童・生徒の心と体の成長に資する取り組みが重要であることから、学校現場をはじめとした関係団体などと連携して社会教育や体力・競技力の向上などに向けた事業を推進している。</p> <p>構造:本館及び宿泊棟 鉄筋コンクリート(一部鉄骨造)3階建 延べ3,692.08㎡ 体育館 鉄筋コンクリート・小屋組木及び鉄骨造2階建 延べ9,330.81㎡</p> <p>施設概要:</p> <p>本館 青少年ホール(定員200名) 会議室A(和室:定員30名) 会議室B・D(定員各40名) 会議室C(定員80名) 多目的室(定員90名) 化石展示ホール、歴史文化教室、自然科学教室 等</p> <p>宿泊棟 宿泊室(定員153名) 指導員室(4室) 浴室(大浴室・小浴室) 食堂(定員200名)</p> <p>野外炊飯棟 定員80名 補助グラウンド ソフトボール球場 体育館 大アリーナ 小アリーナ トレーニング室 医科学測定室 会議室 陸上競技場兼、サッカー場</p>
職員体制	<p>職員:所長 1名 次長1名 事業課長1名 チーフ1名 主幹1名 主任社会教育主事3名 社会教育主事1名 非常勤職員1名 合計:10名</p> <p>現業部門は、土佐青少年育成会に委託(12名)</p>

2 利用実績

(1) 宿泊者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
宿泊者数	7,915	9,199	7,264	8,648	7,627	8,131

(2) 利用団体数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
団体数	1,929	2,023	1,914	2,039	2,190	2,019

(3) 利用者数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
人数	123,499	122,017	114,024	119,478	117,083	119,220

3 業務の評価

項目	状況説明
① 利用拡大のための取り組み	<p>○「中一学級づくり合宿事業」をはじめとする学校との連携事業については、事前に(学校のねらい)について協議し、事後にも訪問を行うなど、学校現場が抱える課題の解決に寄与している。また、事後アンケートでは生徒や学校からも好評を得ており、特に学校からは「その後の学級経営に役立っている」と、満足度100%を達成した。</p> <p>○主催事業の「大自然キャンプ」に加え、「自然の生き物観察隊」を開発し、自然体験活動プログラムの拡大に努めている。</p> <p>○南海トラフ地震に対する事業として「防災キャンプ」を新規開発し、避難生活の模擬体験や防災食での生活、救急法を学ぶなど、「県民が求めるもの」を意識した事業展開を行っている。</p> <p>○「スポーツ振興事業」では、本県のスポーツ選手の育成に幅広く貢献している。</p>
② 利用者へのサービス向上のための改善策	<p>○新施設の供用開始に伴い、これまで対応できなかった入浴時間の緩和や、利用者アンケートにおける改善希望等について柔軟に対応し、サービスの向上に努めている。</p> <p>○学校・市町村教育委員会への訪問や、スポーツ振興事業においては競技力向上委員会に参加し幅広く意見交換を行うことで、利用者のニーズを把握するよう努めている。</p> <p>○夏休み等の長期休暇期間中は休館日なしで対応し、利用者の増加に努めている。</p>
③ 施設の運営について	<p>○現業部門を委託している一般財団法人土佐青少年育成会との意思疎通を図り、主催事業の実施や施設運営に協働して取り組んでいる。</p> <p>○毎朝の朝礼や定期的な所内会を持ち、職員全員で必要な情報を共有し、風通しのいい職場づくりに努めている。</p>
④ 利用実績	<p>○平成27年度と比較して、宿泊者数:1,021名減少、利用団体数:151団体増加、利用者数:2,395名減少。</p>
⑤ 収支の状況	<p>○平成27年度と比較して、使用料収入は約293千円の増収となった。</p>

<p>総合評価</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な事業のラインナップに努め、施設の特性を活かした取組を行っている。 ○「中一学級づくり合宿事業」では、参加者や学校現場からの評価や期待が高く、また、「不登校対策事業」では、参加した生徒が復学や進学したとの報告が寄せられるなど、学校現場が抱えている問題の解決に向けて支援する取組を行っている。 ○利用者アンケートでニーズを把握し、要望に対して丁寧な対応を行っている。 ○宿泊利用者の食事は食堂でとることとなっているが、野外炊飯を体験したいとの要望があれば職員が柔軟に対応し、利用者の満足度を高めている。 ○参加募集人数に満たない主催事業については、問題点をいち早く見出し、可能な限りの手立てを講じて、募集人数での実施にこぎつける努力を期待する。 ○昨今の青少年が、昔から伝わる行事(七夕行事など)を体験する機会が希薄となっていることから、主催事業における昔あそび体験や昔の道具を使った体験に加え、新たに行事体験を学ぶプログラムの展開を期待する。また、地域の世帯人口が増加傾向にあることから、様々な世代が共に学ぶことができるプログラムや場所づくりを提供してほしい。 ○新施設の供用開始により利便性が向上したことから、訪問活動や利用者アンケートの充実、各方面への案内周知など、これまで以上によりきめ細やかな利用PRを推進するよう期待する。 ○施設を利用したい学校が苦慮している問題点について、学校と協働し、希望の実現に向けた後押しを期待する。 ○閑散期に、効果的に実施できるプログラムの充実を期待する。 ○利用促進の観点から、施設の独自性をPRするなど、ホームページの更なる充実を図ってほしい。 ○本館1階に常設した展示コーナーについて、展示するだけでなく、来館者が興味を惹かれるような工夫を講じて、上手く利活用してほしい。
--------------------	--

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの